

1. 授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関、民間団体、NPOなど）でのボランティア活動等に参加することによって、地域社会になじみ、関わり、それを深め、地域課題を発見するというプロセスを通じて、問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは、現実にある問題に直面した際に、既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり、今後の学生諸君のライフ・キャリアにおいて重要な力となる。これはまた、現在、本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の1つでもある。

以上の趣旨から、本講義は、教員が一方的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく、学生が自発的に取り組み、グループ学習や現地実習、ディスカッション、結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより、単位が認定されることになる。

2. 授業の進め方

実習では、学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について、大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから教学課に届ける。たとえば、下記のようなボランティア活動が考えられる。

- ① 県内の行政との協働
- ② 地域の商工会との協働
- ③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県、市町村など）
- ④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
- ⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
- ⑥ 地域NPO・ボランティア団体への参加
- ⑦ その他の地域活動への参加

3. 授業計画

1. ボランティア活動の基礎（講義）	4. ～13. ボランティア実習（5日以上、30時間以上）
2. ボランティア活動の心得（講義）	14. 活動報告書の作成（演習）
3. グループ活動・活動計画書の作成（演習）	15. 活動結果報告会（プレゼンテーション）

4. 到達目標

- ・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し、説明できるようになる。
- ・社会貢献実践の学外実習（5日間以上）を行い、大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
- ・実習結果と振り返りを「社会貢献実践実習報告書」に報告・提出し、次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
- ・社会貢献実践の活動結果報告会で1年間の実習結果を発表し、その意義・役割・課題を理解し、活用できるようになる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

- ・「社会貢献実践」の事前の講義・ワークショップを3回行う。
- ・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30分程度）。
- ・5日間以上（30時間以上）の外部実習を行い、実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成、提出し、それに基づいて発表する。

6. 成績評価の方法・基準

事前学習となる講義に出席して課題を提出すること、現地でのボランティア活動の実践状況、最終報告会での発表を受けて、社会への貢献度および提出された活動計画書・活動報告書をもとに総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

参考文献：田村正勝，「ボランティア論-共生の理論と実践」，ミネルヴァ書房，2009 年
事前の講義や現地訪問先で配布される資料を用いる。

8. 受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが，その条件として実習先や日程を大学側に届け出て，必ず承認を得ることが必要である。